

少年少女フェスティバルを振り返って

■みんなの表情■

今回、私は2つのブースを担当しました。缶バッジブースでは準備をしている際にいくつか試作をしたのですが、みんな和気あいあいと作る事ができて良いスタートが切れたと思います。ブースに来てくれた子どもたちの真剣な表情や、缶バッジが出来上がって嬉しそうなお顔を見る事ができて良かったです。

また、なりのわい節では一緒に踊ったジュニアリーダーの大半が同じ地区から来ていたので、

■みんなの頑張った姿■

ジュニアリーダー 藤本 愛美 私たちは、先輩たちから代々受け継がれているなりのわい節について、何も知らない状況から始めました。先輩たちが踊っている動画を見たり、お互いのダンスを見せ合ったり、間違いなどを指摘しながらたくさん練習をして踊れるようになりました。当日、なりのわい節を踊る前はみんな緊張していましたが、踊った後は達成感を感じている人が多く、良い思い出になりました。



缶バッジ作りとなりわい節



過度な緊張感や張り詰めた雰囲気はなく、とても楽しく踊ることができました。本番では10回も踊ったので、さすがに最後の方は疲れも見えましたが、最後まで踊り切った時はとても嬉しかったです。

■不思議な原理で回る

ゴリゴリペラの作製は4年ぶりとなります。久しぶりに子どもたちに作製してもらえ



教える方も真剣です



ゴリゴリ!

と考えると、事前準備にも力が入りました。

当日は多くの子どもたちにゴリゴリペラの作製を経験してもらいました。ゆっくり丁寧に作る子もいれば大胆に銅線を巻く子もいて、作り方を教える側としても興味深かったです。この少年少女フェスティバルは様々な物づくりが経験できる貴重な機会ですので、今後も携わっていきたいと思います。

■なんで?どうして?■

依知南地区 有島 真樹 当地区の出し物はマジックカード。イラストの描かれたカー



熱心に作製中です

ドを引き出すイラストに色が付くという不思議なカードです。仕組みは簡単ですが、初めて見たときはどうなっているの不思議でした。子どもたちも親御さん初めは「えっ?なんで?」どうなってるの?」そして仕掛けがわかると晴れやかな表情になりました。その様子を見るのが楽しかったです。

■笑顔のわりばしっぼう■

厚木北地区 小野寺 勝 私たちの地区では、初めてわりばしっぼうのブースを出展することになりました。地区会ではみんなでわりばしっぼうを作ってみて、作り方や材料の数、会場レイアウトなどを話し合いながら準備を進めました。当日は用的な紙コップを急ぎで準備するなど、試行錯誤しながらの運営となりました。それでも、わりばしっぼうの



よ〜く狙って

色やデザインに凝りながら作る子どもや、的当てに真剣になっている子どもたちの笑顔を見ることができました。準備した甲斐があった大変満足した1日になりました。

■飛んだよ〜プラトンポ■

私たちのブースは広いダンスホール。スペースの半分を作業場に、残り半分を遊び場にしました。ブース出展は久しぶりなので、テーブルに材料を並べたら懐かしい感じがしました。プラトンポはプラスチックの板にペラの形を書いて切り取り、真ん中に穴をあけ、竹串を通して出来上がりです。飛ばしてみると、あらら?上手く飛ばせません。羽根を少しひねってあげると「飛んだあ〜」と大歓声。しばらく遊んだのち、次のブースへと向かっていく子どもたち。来年もまたお友達と遊びに来てくださいね。



やっ! 飛んでけ!



上手にできました

(4面から) 野外指導者養成講習会に参加して

■雨ならではの体験■

茨野地区 岡本 朝道 今回の講習会では、なかなか体験することのできないキャンプファイヤーをする予定でした。しかし、当日は残念ながらあいにくの雨。実際に火を燃やすことができず残念でしたが、準備や注意点などを講師やジュニアリーダーに教わり、自身自身が指導する時にちゃんと使えるようにと学んできました。

■子どもたちの

今回の講習会では、なかなか体験することのできないキャンプファイヤーをする予定でした。しかし、当日は残念ながらあいにくの雨。実際に火を燃やすことができず残念でしたが、準備や注意点などを講師やジュニアリーダーに教わり、自身自身が指導する時にちゃんと使えるようにと学んできました。

■変化する自覚■

小鮎地区 貝塚 景 キャンプファイヤーは、ジュニアリーダーだった時にも何度か行ったことがあります。その時は、参加してもらった子どもたちに燃える火を見ながら非常感とゲームを楽しんでもらうことを意識していました。

今回の講習会で教えてもらったことは、青少年指導員として関与する場合には子どもたちの安全を第一に考えなくてはならないということでした。そのために必要な準備や後片付けなどを多く学びました。改めて青少年指導員としての自覚が芽生えました。

■安全確保を第一に■

南毛利地区 前角 征史 講習会の講師は経験豊富な元ジュニアリーダーで、小さな子どもたちの安全確保を第一に考えた手順や工夫を丁寧に教えていただきました。プライベートでのキャンプやバーベキューとは違うということが実感でき、とても勉強になりました。



あゆみ回廊



集中して作っています

■『しおり』って何?■

南毛利南地区 森 徹也 大勢の子どもたちの歓声が響き渡る中、唯一言葉少なく集中して創作するのがしおり作りです。着席した子どもたちがますます聞いてくるのは「しおりって、何?」でした。本に触る事が減



どう?きれいでしょ!

■新たな取り組み■

文化部会 小泉 克也

コロナによる規制が緩和され、屋内での開催となった少年少女フェスティバルですが、今まで文化部会はペーパーサート(紙人形劇)を中心に前座で手品をするのが定番となっていました。コロナによる規制がどうなるかわからない中でペーパーサート実施は難しいとの判断で部会として何ができるのかを考える必要がありました。



準備万端です

手品

楽しんでもらえたかな?